

令和7年度学校生活全般における体罰等の実態把握に関する調査の結果等について

I 県立学校における体罰等調査

県立学校における体罰等の実態を把握し、具体的な事案に対しては適切な対応を講ずることで、児童・生徒が安全かつ安心して学校生活を送ることができる環境を整備するため、「学校生活全般における体罰等の実態把握に関する調査」を実施した。

1 調査対象等

- (1) 調査対象者は、高等学校 134 校、中等教育学校 2 校、特別支援学校 29 校のすべての児童・生徒及び保護者、教職員等(外部指導者を含む)
- (2) 調査対象人数は、児童・生徒が約 118,600 人、教職員等が約 16,000 人
- (3) 対象となる体罰等は、学校生活全般における教職員等による体罰や不適切な指導

2 調査対象期間

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

3 調査方法

- (1) 児童・生徒及び保護者は、パソコン、スマートフォン等から回答するか、学校で配付する回答用紙を県教育委員会に郵送(学校名、課程、学年を原則として回答(無記名回答も可))
- (2) 教職員等は、原則、回答用紙に記名の上で校長に提出

4 調査の結果

調査によって把握した体罰事案は1件、不適切な指導事案は17件であった。

	申告者	体罰	不適切な指導
7年度	児童・生徒及び保護者	1	10
	教職員等	0	7
	合計	1	17
6年度 (参考)	児童・生徒及び保護者	2	16
	教職員等	0	7
	合計	2	23

※「不適切な指導」は令和6年度から調査開始

令和7年度の体罰等の事例(県立学校)

【体罰】

○児童・生徒及び保護者からの申告

- ・授業中、机に伏せて寝ていた生徒に指導する際、当該生徒の腕を素手で2回叩き、大声で叱責した。

【不適切な指導】

- ・ホームルーム中、スマートフォンを出している生徒が複数おり、注意したが指示に従わなかったため、クラス全体に「スマホかち割るぞ」と発言した。
- ・授業中、ハサミで髪をいじっていた生徒に注意したところ、その行為はやめたものの、後ろの生徒と話し始めたため、「いかげんにしなさい、大馬鹿者」と発言した。
- ・部活動の練習前後に、遅刻や欠席が多かった生徒に対し、「ぶっとばす」「やる気がないならやめちまえ」「お前はいらぬ」などと発言した。

II 市町村立学校における体罰等調査

政令3市を除く県内のすべての市町村教育委員会が、県の実施要項を参考に、各々の方法により体罰等の実態把握調査を実施した。

1 調査対象等

- (1) 調査対象者は、小学校 324 校、中学校 176 校、高等学校 1 校、特別支援学校 3 校のすべての児童・生徒及び保護者、教職員等
- (2) 調査対象人数は、児童・生徒が約 219,100 人、教職員等が約 18,600 人
- (3) 対象となる体罰等は、学校生活全般における教職員等による体罰や不適切な指導

2 調査対象期間

令和7年4月1日から市町村ごとに定めた調査の回答記入日まで

3 調査の結果

調査によって把握した体罰事案は3件、不適切な指導事案は77件であった。

	申告者	体罰	不適切な指導
7年度	児童・生徒及び保護者	2	47
	教職員等	1	30
	合計	3	77
6年度 (参考)	児童・生徒及び保護者	1	85
	教職員等	3	19
	合計	4	104

※「不適切な指導」は令和6年度から調査開始

令和7年度の体罰等の事例（市町村立学校）

【体罰】

○児童・生徒及び保護者からの申告

- ・部活動の大会中に「調子に乗っているから、負けるんだ」「ふざげんな」と発言し、生徒の背中を叩いた。
- ・放課後の校内巡視中に、懐中電灯の光を目に当てた。デコピンをした。蹴った。

○教職員等からの申告

- ・部活動の試合後、負けて戻ってきた生徒に対し、防具の上から胸の辺りをげんこつで殴った。

【不適切な指導】

- ・休み時間、教室の前の廊下で注意喚起のための養生テープを貼っている児童に対し、「こんなところに貼ってんじゃねーよ」などと言いながら剥がした。
- ・授業中、課題を忘れてしまった生徒に対して「ボケナス」と発言した。
- ・クラスの児童に向かって、「これまでで一番できない子たちだ」という発言があった。
- ・部活動の指導中、強い口調で指導することがあり、怒りを抑えきれず自分のボールペンを折った。

Ⅲ 令和7年度の体罰事案の状況

令和7年度の体罰事案は、前述の体罰等調査によって把握した事案4件（県立学校1件、市町村立学校3件）を加え、11件（県立学校5件、市町村立学校6件）であった。

1 県立学校

校種 場面	7年度				(参考)	
	高等学校	中等教育	特別支援	合計	6年度	5年度
授業中	3 (1)	0	0	3 (1)	1 (1)	1 (1)
部活動中	0	0	0	0	6 (1)	3
特別活動中 (部活動以外)	1	0	0	1	0	1
その他 (昼休み・放課後等)	1	0	0	1	1	1
合計	5 (1)	0	0	5 (1)	8 (2)	6 (1)

※ ()数字は体罰等調査によって把握した件数(内数)

2 市町村立学校

校種 場面	7年度				(参考)	
	小学校	中学校	高等学校 特別支援	合計	6年度	5年度
授業中	1	0	0	1	1	2
部活動中	0	3 (2)	0	3 (2)	2 (1)	2
特別活動中 (部活動以外)	0	0	0	0	0	0
その他 (昼休み・放課後等)	1	1 (1)	0	2 (1)	5 (3)	3
合計	2	4 (3)	0	6 (3)	8 (4)	7 (0)

※ ()数字は体罰等調査によって把握した件数(内数)

3 総合計（県立学校＋市町村立学校）

年度 場面	7年度	(参考)			
		6年度	5年度	4年度	3年度
授業中	4 (1)	2 (1)	3 (1)	3	5 (2)
部活動中	3 (2)	8 (2)	5	1	3
特別活動中 (部活動以外)	1	0	1	1 (1)	1
その他 (昼休み・放課後等)	3 (1)	6 (3)	4	2	0
合計	11 (4)	16 (6)	13 (1)	7 (1)	9 (2)

※ ()数字は体罰等調査によって把握した件数(内数)

IV 総括

1 県立学校

体罰の総数は前年度の8件から5件に減少した。

場面別では、授業中における体罰は前年度の1件から3件に増加し、特別活動中における体罰は前年度の0件から1件に増加した。また、その他（昼休み・放課後等）における体罰は前年度と同じ1件であった。また、部活動中における体罰は前年度の6件から0件に減少した。

2 市町村立学校

体罰の総数は前年度の8件から6件に減少した。

場面別では、部活動中における体罰は前年度の2件から3件に増加した。また、授業中における体罰は前年度と同じ1件で、特別活動中における体罰は前年度と同じ0件であった。また、その他（昼休み・放課後等）における体罰は前年度の5件から2件に減少した。

V 今後の対応

今後も体罰等の根絶に向けて、継続的に取組を進める必要がある。

各学校では、児童・生徒指導や部活動において、体罰等の未然防止のための環境整備や体罰防止リーフレットの活用、人権教育研修の実施等を行い、体罰等を許さない学校風土づくりに努める。

また、令和7年度の体罰事案及び不適切な指導事案の事例について、各学校へフィードバックすることにより、教職員の意識啓発を図る。